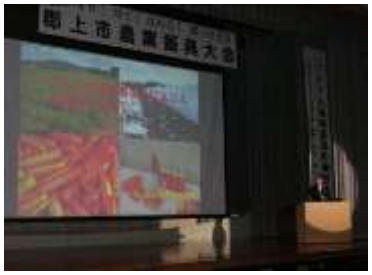
平成 25 年

12 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成２５年１２月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

揖斐農林■**かぼちゃ**　**揖斐郡産かぼちゃの加工品をどうぞ!**

揖斐農林事務所は、JA いび川・管内 3 町と連携し、産地化に取組む「かぼちゃ」からパウダーを作成し、これを使った加工品の開発販売の支援を進めている。地元実需者（菓子屋・料理屋等）にパウダーを活用した加工品の試作等を行っていただき、12 月 2 日に発表会を開催した。当日は地元実需者、生産者、関係機関など約 70 名が参加し、試食、意見交換等を行った。

【発表会の風景】

発表した加工品は、冬至を含む 12 月 21～23 日に「地産地消かぼちゃフェア」と銘打って、地元実需者の各店舗で販売された。農林事務所はＰＲマップを作成して販売支援を行った。農商工連携の良い事例となったため、次年度以降もかぼちゃ及びパウダーを使った取組みを継続支援していきたい。

中濃農林■**円空さといも**　**食べ方いろいろ　－レシピ集の完成と販促フェア－**

食べ方の提案による消費拡大をめざし、昨年実施された「円空さといも料理コンテスト」で入賞した10作品の調理法をまとめた「円空さといも料理レシピ集」を農林事務所が作成した。最優秀賞の円空さといも五平をはじめ、シフォンケーキ、ピザ、スープなど、様々なアレンジによるユニークな料理法を掲載している。美濃市内のスーパーで開催された「円空さといも販促フェア」で配布したところ、大変好評で、用意した部数が足りないくらいであった。今後、県内の小売店等で配布を予定しており、幅広いＰＲを行っていく。

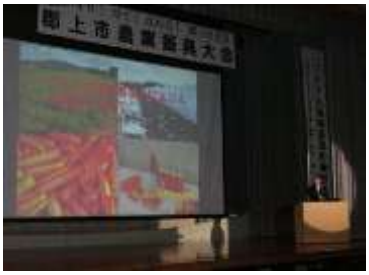
【料理レシピ集】

販促フェアでは、煮崩れしにくい特徴を生かした「円空さといもホワイトシチュー」の試食が行われ、多くの人が意外な取り合わせに興味津々であった。試食後はその美味しさから、すぐに買い求めていく光景がみられた。

【販促フェアの様子】

郡上農林■**にんじん**　**普及の取り組み成果を発表**

12 月 7 日、白鳥町で開催された郡上市農業振興大会において、「ひるがの高原春まちにんじんの発展に向けて」と題して、にんじん生産に対してこれまで農業普及課が行ってきた取り組みの成果を発表した。



【発表の様子】

栽培では有望品種選定や潅水実証、加工ではジュース製造、またＰＲでは消費宣伝アイテム作成やひるがのＳＡ直売所の活用といった支援活動を行った結果、にんじん生産を順調に伸ばすことができた。今後は一層の収益向上のため春まちにんじんの販路拡大や加工品販売強化に力を入れていくと発表した。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■**ブロッコリー　年明け良品出荷に向けての研修会**

今年度の生育は、定植後の干ばつや低温等の影響を受けて遅れていた。生産者からは十分な品質が得られるか不安の声もあり、年明けに良品が出荷できるよう、農林事務所は11/28から12/12まで各地での栽培研修会で、肥料切れさせないことと収穫適期を見極めることを重点的に指導した。

【栽培研修会の様子】

西濃農林■**トマト　ほ場巡回及び栽培研究会の開催**

12 月 9 日～18 日に、海津トマト部会５支部ごとに、生産者によるほ場巡回と栽培研究会が開催され、他の生産者と自らの栽培管理とを比べながら、生産者間で熱心な意見交換が行われた。

農業普及課からは、厳寒期における栽培管理（生育障害対策、保温、肥培管理、病害虫対策）について指導した。

本年産の抑制作型は、９～10 月までの高温と 11 月以降の低温から、肥大・着色が遅れたものの、現在の生育は概ね良好な状況である。今後は病害虫の発生も少なくなり、促成作型の出荷も始まることから、両作型を合わせた出荷量の増加が期待される。

可茂農林■**夏秋トマト　過去最高単収9.9ｔ達成**

12 月 16 日に、美濃白川夏秋トマト部会反省会および生産販売検討会が開催された。

農業普及課では、同部会の技術部会で取り組んだ施肥改善や青枯病対策試験の結果を部会員に報告し、次年度に向けた優良事例の取り組み推進を行った。

当部会に対しては、施肥改善や栽植本数増加などの技術改善の指導に取り組んできた結果、今年の出荷量は 455t(前年比 106%)、単収 9.9t/10a(前年比 105%)となり、単収は昨年に続き部会最高を更新し、10ａ当たり出荷量 14ｔ台の生産者が初めて現れるなどの成果が現れている。

恵那農林■シクラメン　**シクラメンモニター販売を実施！**

中津川市・恵那市のシクラメン生産者で組織する「恵那花き研究会シクラメン勉強会」では、生産したシクラメンがどんな場所に飾られ、どのくらいの期間楽しんでもらえているかを確認するため、今年で４年目となるシクラメンモニター販売を実施した。

モニター用のシクラメンは、3 名の生産者が 20 種類を用意した。申し込みは 169 名から 369 鉢となり、鉢数で前年対比 127%と前年を大きく上回り、モニターへの引き渡しは、岐阜県庁、恵那総合庁舎、中津川市役所の 3 か所で行った。「恵那のシクラメン」の知名度の向上が実感できた。

【県庁でのシクラメン引き渡し状況】

農業普及課では、シクラメンモニターの実施を支援し、2 か月後にアンケート調査を行い、モニターからの意見を集約して、今後のシクラメンづくり指導に役立てていく予定である。

下呂農林■ＧＡＰ　**県のＧＡＰ講座を下呂市で開催**

農業普及課の働きかけにより、県農産園芸課主催の「ＧＡＰアドバイザー派遣講座」が、下呂市の農業者を対象に１２月４日に星雲会館で開催された。

当日は、農業普及課の呼びかけで集まった２３名の農業者や関係機関担当者が受講した。午前中はＧＡＰの概論を学び、午後は水稲のGLOBALG.A.P導入に向けた基礎知識について、農場リ

【農業普及課長あいさつ】

スク管理のシミュレーションを交えながら学んだ。講義が進むにつれ、参加者はＧＡＰ取り組みの意欲が高めていった。

飛騨農林■**飛騨トマト　飛騨トマト全体研修会を開催**

12 月 5 日に、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会の主催による飛騨トマト全体研修会が開催された。

農業普及課からは、土壌病害対策の取り組みとその成果について、調査結果等を踏まえて発表を行った。部会員の代表から、地区ごとの農家の研究活動（農業普及課でデータ収集や資料作成等を支援）の発表も行われた。

その他、東京農業大学の後藤教授による「見直そう！トマト栽培のための土づくり」と題した講演があり、集まった部会員は、本年度取り組んだ土壌病害対策と照らし合わせながら、熱心に話に耳を傾けていた。

【トマト全体研修会の様子】

農業経営課■**イチゴ　イチゴ栽培指導検討会議を実施**

12 月 12 日（木）に、県下でイチゴの栽培指導を担当する普及指導員の指導力向上と農業技術センター研究員との連携を強化することを目的に、検討会議を開催した。

現地検討では、昨年度に 10ａ当たり収量６ｔ以上を達成した栽培農家を巡回し、厳寒期へ向けた栽培管理技術等について意見交換を実施した。室内検討では、各地域の生産・出荷情報を共有するとともに、今後の栽培管理に係る指導事項について検討、確認を行った。

また、農業技術センター場内にて、最新の研究情報の入手や新品種の生育状況等について意見交換を行った。

【技術の高い栽培農家と意見交換】

次回は、2 月上旬に、厳寒地域での栽培環境制御法と春先への栽培管理指導をテーマに開催予定する。

多様な担い手の育成・確保

東濃農林■**鶴里町柿野地区集落営農組合（土岐市）　先進地を視察**

鶴里町柿野地区集落営農組合は、12 月 5 日、集落農地を守る営農システム確立事業を活用し、長野県伊那市高遠町の「(農) 山室」を視察した。

（農）山室は、「先祖から受け継いだ農地・農業を守りたい」という信念のもと、中山間地域の条件不利を克服するため、ほ場整備事業・鳥獣害対策・集落営農に取り組み、担い手確保・利用権設定の観点から法人設立に至ったと説明された。鶴里町柿野地区集落営農組合は、３月で発足１年を迎え、今後経営拡大が予想される一方、担い手不足等の課題が想定される。そのため、課題克服の手法や知恵を確実に習得し、組合運営に反映しようと真剣に質問する組合員が多数あった。

【熱心に説明を聞く組合員ら】

農業普及課は、今回の視察研修を企画面でサポートするとともに、瑞浪・土岐両市で集落営農の組織化を検討中の２グループにも声をかけ、農業者同士の交流・意見交換の場ともなるよう関係者と連携した。

魅力ある農村づくり

農業経営課■**農山村パートナーシップいきいきフォーラムを開催**

【熱心に耳を傾ける農業者】

農業経営課では、12 月 18 日に農業経営への男女共同参画に関する意識を高めるため、標記フォーラムを農業者及び関係機関約 50 名が参加のもと開催した。

事例発表では、瑞穂市の女性農業経営アドバイザーが、自ら農業委員となり遊休農地の解消に取り組んだり、仲間とともに農産物を加工販売し地域活性化に寄与している内容の報告後、まずは自分たちの思いを口に出すこと、女性であることに甘えず男性と協力し前へ進もうと、力強く呼びかけるとともに女性の目線に立った意見を政策決定の場に取り入れて欲しい旨を提案された。その後、日本女子大学客員教授安倍澄子氏から、「地域で、農業経営で、私らしく！」と題した講演があり、農業経営において生活者の視点を生かし、家族の個性や人格を尊重しながら家族経営力を発揮するため、目標の共有化をすることの大切さなどを話された。

参加者からは、参加してよかった、各分野への女性参画の必要性を確認できた、普段意識していないことに気付かされた、などの意見が出された。今後、農業者を含めた関係者が農山村の男女共同参画の実現に向けて意識して取り組むよう推進を強化していく。